



鶏けいめい鳴

2010年3月14日(第34号)

イエスの言葉

『種を蒔く人が種蒔きに出て行った』

聖書(マルコ福音書4章3節)

牧師 河合裕志

イエスはたとえ話の名人。

周りにゴロゴロころがっている材料を用いて大事なことを語る。人々は平易なイエスの話を聞こうと、また病気をいやしてもらおうとガリラヤ湖畔にいる彼ののもとにゾクゾクと押しかけた。おびたしい群衆によりイエスはもみくちやになるのを避けるため小舟に乗って岸より少し離れそこから話を始める。ゆるやかなスロープの岸辺には何千人もの人々。老若男女、子供達もまじってる。イエスは大きな声を張り上げた。

「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った…。ある種は道端に落ち鳥が来て食べてしまった。ある種は石だらけの地に落ち日が昇ると枯れてしまった。ある種は茨の中に落ち茨に覆いふさがれ実を結ばなかった。ある種は良い地に落ち30倍、60倍、100倍にもなった～こんな話。そして「聞く耳のある者は聞きなさい」と言って話を結んだ。

この話を人々はどんな具合に聞いたものか。私もそこに居たとしたらこう受けとっただろう。「労苦は結局のところ全て無駄に終わるといふことはないのでは。必ずいつか実り、良い結果というものがあるのではないかしら」。恐らくそこに居た大勢の皆さんもこんな風に聞き取ったかも。そしてこれは間違っていないだろう。

これは希望の教え。

どんな仕事でも、勉強でも、運動でも、健康づくりでも目標を目指してコツコツと励むということ、徒勞と思えるようなことであってもあきらめないで根気よくやっけて行く、その時に必ず実りがあるんだよ、素晴らしい結果に至るのだということ。私達もせいぜいそれぞれの置かれたところにおいてベストを尽くしたいもの。

ところでこのたとえ話にはウラ話が。

弟子達がひそかにこのたとえの解説をイエスに願う。そこで彼の語ったところは意外なことだった。「種を蒔く人は神の言葉を蒔くのである」。なーんだ、そうだったのか。これは伝道者の労苦を語ったものなのか。確かにみんながみんな神の言葉を聞き入れるものではない。労苦は無駄に思われる。しかしそうではない。

必ず神の言葉を受け入れてくれる人も結構いるよ。だから希望をもって神の言葉の種蒔きに励みなさい。

キリスト教2千年の間、このたとえ話はいつどの時代でもイエスの弟子達を励まして来ただろう。そして弟子でなくてもこのたとえほどの人にも希望を与えてくれるものに違いない。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分
 子どもの教会 : 毎日曜日午前9時
 中高校生会 : 毎日曜日礼拝後
 婦人会・壮年会 : 第2日曜日礼拝後
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時
 オリーブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時